

第8回 癌・炎症と抗酸化研究会 (CIA研究会)

イブニングセミナー

抗酸化剤の 新たな医療への応用

— 抗癌剤脱毛予防剤の開発 —

日時 11月17日(金) 18:30-19:30

会場 ホルトホール大分302+303会議室

司会

大分大学医学部
消化器・小児外科学講座 教授

猪股 雅史 先生

講演①

乳がん患者の抗がん剤治療の現況

大分大学医学部消化器
小児外科学講座

佐川 倫子 先生

講演②

抗がん剤脱毛予防の臨床応用に向けて

大分大学医学部消化器
小児外科学講座

河野 洋平 先生

特別発言

日本臨床毛髪学会常任理事
ガーデンヒルクリニックくらた医院 院長

倉田 壮太郎 先生



司 会

大分大学医学部
消化器・小児外科学講座 教授

猪股 雅史先生

略 歴

- | | | | |
|---------|--|----------|--|
| 1988年3月 | 大分医科大学医学部卒業 | 2014年10月 | 大分大学医学部消化器・小児外科学講座 教授 |
| 1988年6月 | 大分医科大学医学部附属病院外科第一(研修医) | | 【主な学会・資格】 |
| 1990年4月 | 国立病院九州がんセンター 乳腺部 | | 日本内視鏡外科学会:技術認定取得医・評議員・理事 |
| 1994年5月 | 国立がんセンター研究所 病理部
(対がん10カ年総合戦略・リサーチレジデント) | | 日本外科学会:指導医・専門医・代議員 |
| 1997年3月 | 大分医科大学 大学院 修了 博士(医学)取得 | | 日本消化器外科学会:指導医・専門医・評議員・理事 |
| 2003年4月 | 大分大学医学部総合外科学第一 講師 | | 日本臨床外科学会:評議員・大分県支部事務局 |
| 2010年4月 | 大分大学医学部総合外科学第一 准教授
(消化器外科副診療科長) | | 日本創傷治癒学会:評議員 |
| 2011年9月 | 米国コーネル医科大学大腸外科(NY)
Visiting fellow (厚生労働科学研究海外派遣事業) | | ASCO (American Society of Clinical Oncology): Activemember
ESMO (European Society of Medical Oncology): Activemember
【特許取得】がん化学療法誘発脱毛に対する抗脱毛用組成物
(特許第5578997号 2010年9月16日) |



特別発言

日本臨床毛髪学会常任理事
ガーデンヒルクリニックくらた医院 院長

倉田 壮太郎先生

略 歴

- | | | | |
|---------|-------------------------|----------|---------------------------|
| 1983年3月 | 愛媛大学医学部医学科卒業 | 1999年1月 | 形成外科皮膚科美容外科くらた医院開設(別府市) |
| 1983年5月 | 大阪大学医学部付属病院皮膚科・形成外科 入局 | 2006年4月 | 日本臨床皮膚外科学会理事 |
| 1986年6月 | 大分医科大学皮膚科・形成外科 助手 | 2007年11月 | 日本臨床毛髪学会理事長 |
| 1992年5月 | ウィスコンシン州大学霊長類研究所招聘研究員 | 2012年1月 | P&G Pantene グローバル顧問医師メンバー |
| 1996年1月 | 大分医科大学医学部 講師(形成外科診療班主任) | 2012年3月 | 株式会社アデランスメディカルアドバイザー |



講演①

大分大学医学部
消化器・小児外科学講座

佐川 倫子先生

乳がん患者の 抗がん剤治療の現状

【はじめに】

2016年の日本の年間乳癌罹患患者数は9万人に達し、これは女性11人に1人が乳癌に罹患する時代となり、今後増えていくと予想されている。また、乳癌の診断技術・薬物治療の進歩はめざましく、早期発見・早期治療が可能となり、生存率は向上した。約9万人の新規乳がん患者のうち、補助療法として手術前後で化学療法を行う人は約2万5千人にのぼり、再発・転移症例も含めると化学療法は乳癌治療において重要な位置付けとなった。

【乳癌に対する抗がん剤治療の副作用】

補助化学療法として乳癌に適応となっているレジメンは、アンスラサイクリン系を含むレジメンとタキサン系のみである。抗がん剤治療において重要なことは、いかに副作用を最小限にして、抗がん剤治療を減量・遅滞なく継続できるかである。これらレジメンの共通の副作用として骨髄抑制、嘔気嘔吐、脱毛があり、またレジメン特有の副作用として、アンスラサイクリン系を含むレジメンには心毒性、タキサン系には末梢神経障害や浮腫があげられる。

【抗がん剤の副作用の対策】

具体的に副作用対策として、骨髄抑制に対してはG-CSF製剤、嘔吐に対しては制吐剤の製剤開発が進み、乳癌の化学療法は外来通院が主体となるところまで進歩した。また末梢神経障害や浮腫に対しては、ビタミン剤や利尿剤、漢方薬の併用やアイスグローブの使用など様々な方面からアプローチされている。しかし、脱毛は患者（特に女性）にとって最も精神的苦痛の一つとなる副作用であるにも関わらず、化学療法を中断する重篤な副作用ではないため、対策がほとんどなされてこなかった。頭皮冷却装置の治験が日本でも進んでいるが、物理的・時間的・経済的・身体的負担が大きいのが実態である。

【おわりに】

化学療法が必須であるにも関わらず、脱毛が嫌で化学療法を拒否する患者さんも存在し、その中には、転移・再発を来してしまう症例も存在する。乳癌は一旦再発してしまうと、治癒は困難であり、再発しないための十分な初期治療を行うことが重要である。

略歴

2006年 北海道大学医学部卒業

2006年 JA帯広厚生病院初期臨床研修医

2008年 医療法人鉄蕉会亀田総合病院 乳腺科

2016年4月 大分大学大学院入学

2016年6月 社会医療法人敬愛会中頭病院乳腺外科

2017年4月 大分大学医学部消化器・小児外科学講座

現在に至る



講演②

大分大学医学部消化器
小児外科学講座

河野 洋平先生

抗癌剤脱毛予防の臨床応用に向けて -大分大学・アデランス共同研究-

【はじめに】

乳癌治療において化学療法は初期治療および再発後治療における大きな柱となっているが、その標準的化学療法ではほぼ100%の脱毛が起こる。特に若い世代の女性に多い乳癌において脱毛は、患者に心理的ダメージを与え、患者が化学療法を拒否する大きな要因ともなり、その予防や治療法の開発は早期に解決すべき課題と言える。抗癌剤脱毛のメカニズムには炎症や酸化ストレスによるアポトーシスの関与が報告されており、われわれはαリポ酸誘導体の抗炎症作用、抗酸化作用に注目し、抗癌剤誘発脱毛に対する新規治療薬の開発を目的としてαリポ酸誘導体の効果について基礎研究、臨床研究を行ってきた。臨床応用へ向けた本プロジェクトの取り組みを紹介する。

【プロジェクト研究内容】

1. 抗癌剤誘発脱毛に対するαリポ酸誘導体の効果に関する基礎研究

ラット抗癌剤誘発脱毛モデルを用い、ラットの背部皮膚にαリポ酸誘導体含有軟膏を塗布し、脱毛の程度、皮膚組織の病理解析を行った。1%塗布群では、著明な脱毛抑制効果を認め、病理組織像にて毛根・毛幹部の破壊が軽

減され、炎症細胞浸潤の減少を認めた。また酸化ストレスの指標であるMalondialdehyde、アポトーシスの指標であるcaspase活性は、対照群と比べ低値であった。さらに毛根部細胞培養または毛包の器官培養を行い、毛髪の成長に与える抗癌剤の影響と、それに対するαリポ酸誘導体の効果のメカニズム解明を行っている。

2. 乳癌患者を対象とした臨床研究

乳癌患者を対象として、術後抗癌剤投与期間中にαリポ酸誘導体1%含有ローションの塗布を行った。その結果、脱毛随伴症状(痛み、掻痒)の発生頻度が減少し、脱毛が著明に抑制された症例も認めた。また3-4回/日塗布群は1回/日塗布群と比較しその効果が高かった。

3. 産学連携研究

2014年より乳癌患者の術後補助化学療法による脱毛への効果を評価する目的で、多施設共同臨床試験(αCIA trial)を行った。2015年5月には100例の目標登録数に到達し、化学療法終了後1年の追跡期間後に最終解析を行った。この結果に基づき、産学連携にて新規治療薬の開発が実現した。さらに抗癌剤脱毛後の発毛に与えるαリポ酸誘導体の効果を評価する新規臨床試験を計画しており、2018年にスタートする予定である。

略歴

2001年3月 大分医科大学卒業

2001年5月 大分医科大学外科第一(研修医)

2007年5月 大分大学医学部 消化器外科 医員

2012年3月 大分大学医学部 博士課程 修了

2016年4月 豊後大野市民病院 外科部長

2017年4月 大分大学医学部 消化器外科 高度救命救急センター 助教